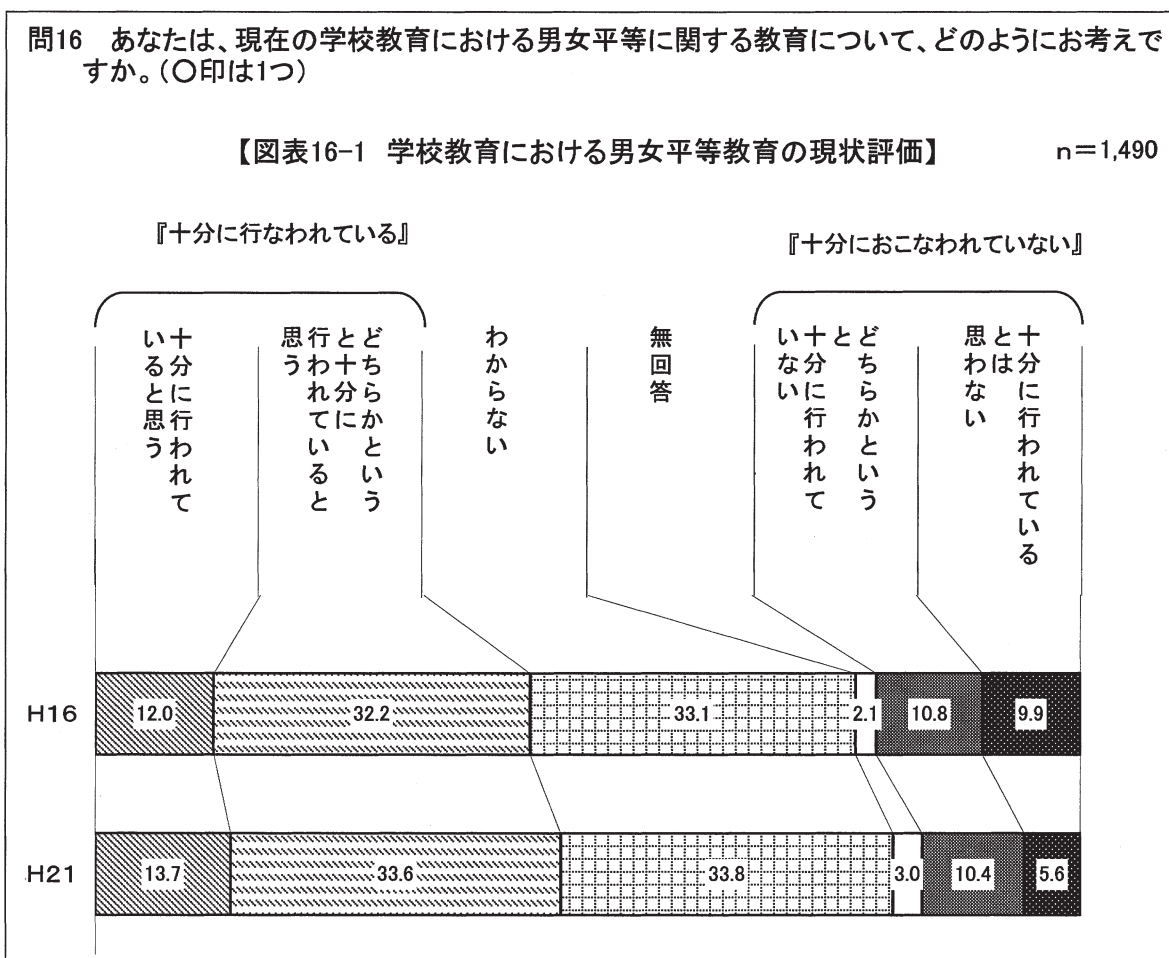


## 6. 男女平等教育について

### (1) 学校教育における男女平等教育の現状評価



#### ◆半数近くが学校の男女平等教育について『十分に行われている』との評価

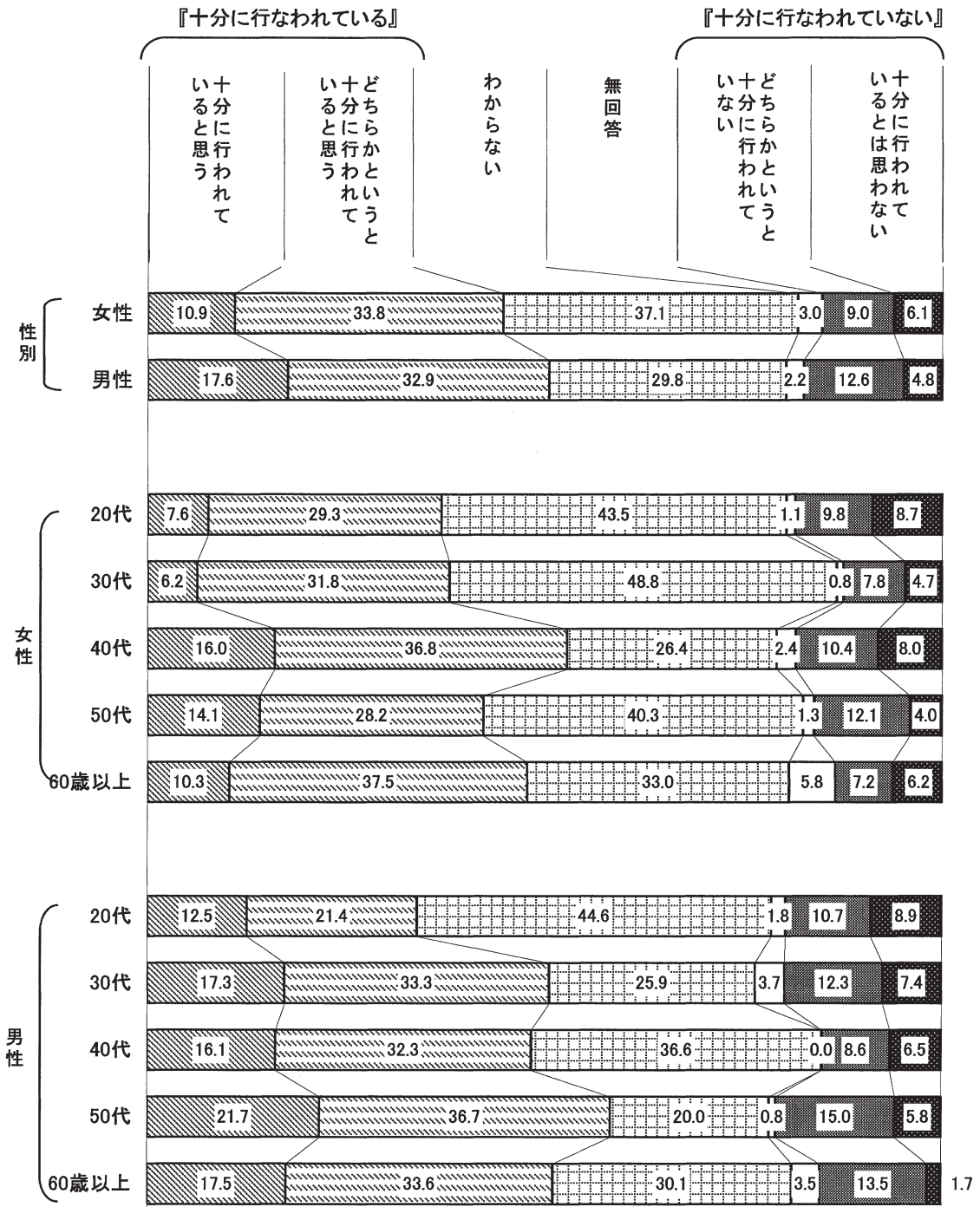
現在の学校教育における男女平等教育について、『十分に行われている』（「十分に行われていると思う」と「どちらかというくらい行われていると思う」を合わせた割合）は、47.3%と半数近くに達しており、『十分に行われていない』（「十分に行われていないと思う」と「どちらかといえば十分に行われていない」を合わせた割合）（16.0%）を31.3ポイント上回っている。

<性別、性・年齢別>

女性では、『十分に行なわれている』が44.7%となっているが、男性では50.5%となり、男性が5.8ポイント上回っている。また、『十分に行われていない』は、男性が17.4%、女性が15.1%で男性が2.3ポイント上回っている。

年齢別にみると、40代の女性と、30代、50代、60歳以上の男性で『十分に行なわれている』が5割を上回っている。

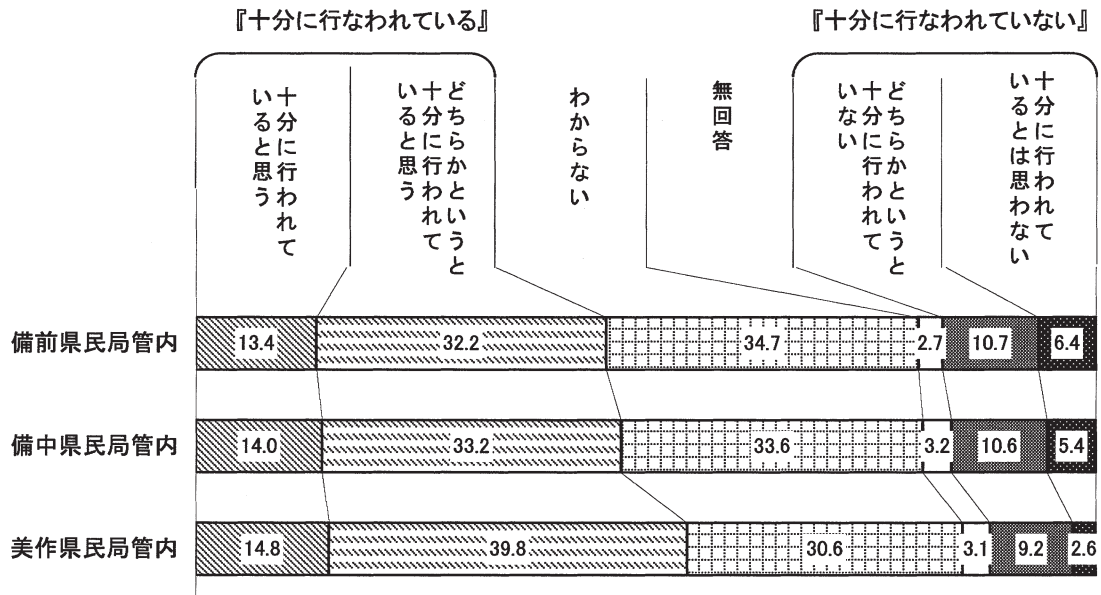
【図表16-2 学校教育における男女平等教育の現状評価(性別、性・年齢別)】



<地域別>

美作県民局管内では、『十分に行なわれている』が54.6%となっているが、備前県民局管内では45.6%、備中県民局管内では47.2%となり、美作県民局管内が7~9ポイント上回っている。反対に、『十分に行なわれていない』は備前、備中県民局管内が上回っている。

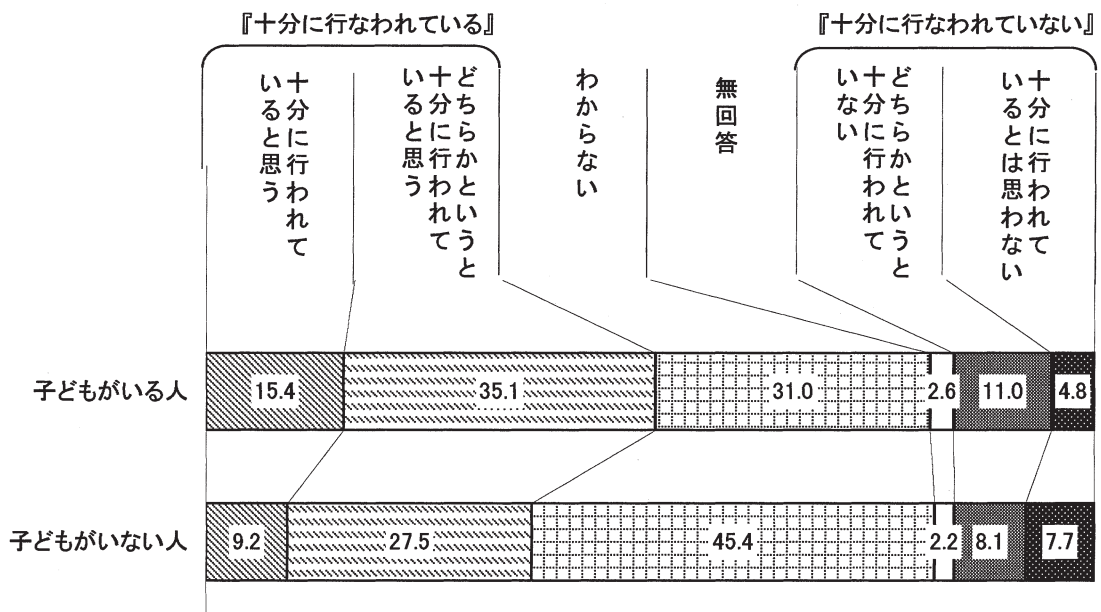
【図表16-3 学校教育における男女平等教育の現状評価(地域別)】



<子どもの有無別>

子どもの有無でみると、「子どもがいる人」では、『十分に行なわれている』が50.5%となっているが、「子どもがいない人」では36.7%となり、「子どもがいる人」が13.8ポイント上回っている。一方、『十分に行なわれていない』はいずれも15%程度となっている。

【図表16-4 学校教育における男女平等教育の現状評価(子どもの有無別)】



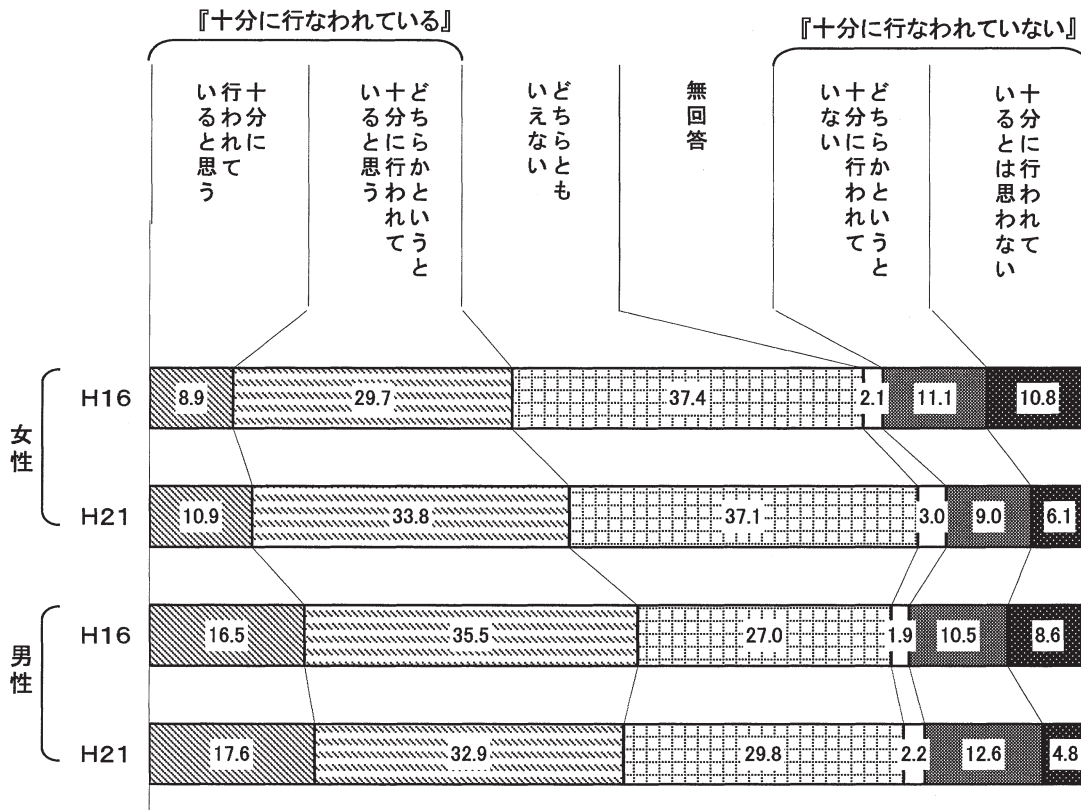
<前回調査との比較>

H16年調査と比較すると、女性では『十分に行なわれている』が、38.6%から44.7%へと6.1ポイントとH16年を上回っている。

また、『十分に行なわれていない』は、6.8ポイントH16年を下回った。

一方、男性では『十分に行なわれている』『十分に行なわれていない』とも、横ばいとなっている。

【図表16-5 学校教育における男女平等教育の現状評価(性別・前回調査との比較)】

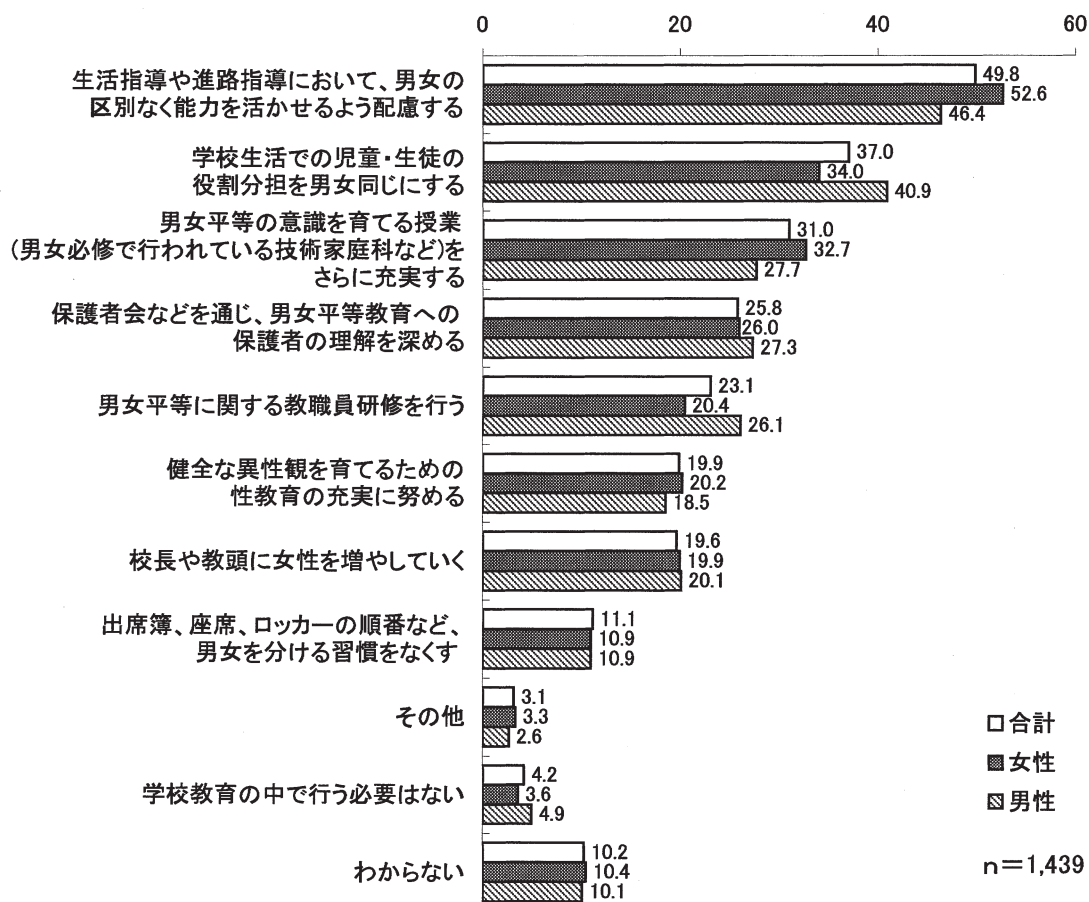




## (2) 学校教育において男女平等を推進していくために必要なこと

問17 では、今後、男女平等を推進していくために、学校、特に小・中・高等学校で行うとよいと思うものはどれですか。(○印はいくつでも)

【図表17-1 学校教育において男女平等を推進していくために必要なこと】



### ◆「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する」が5割弱で最多

今後、男女平等を推進していくために学校で行なうとよいと思われることについては、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する」が49.8%と最も多く、次いで「学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする」(37.0%)、「男女平等の意識を育てる授業(男女必修で行なわれている技術家庭科など)をさらに充実する」(31.0%)の順となっている。

「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する」(女性：52.6% 男性46.4%)や「男女平等の意識を育てる授業(男女必修で行なわれている技術家庭科など)をさらに充実する」(女性：32.7% 男性：27.7%)などは女性が上回っている。一方、「学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする」(女性：34.0% 男性：40.9%)は男性が上回っている。

<性・年齢別>

女性では、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する」が20代を除く年代で最も多い。

男性では、20代、50代、60歳以上で「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する」が最も多くなった。

【図表17-2 学校教育において男女平等を推進していくために必要なこと(性・年齢別)】

(単位:%)

		1位		2位		3位	
女性	20代	男女平等の意識を育てる授業(男女必修で行われている技術家庭科など)をさらに充実する	38.0	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する	35.9	学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする	28.3
	30代	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する	50.4	男女平等の意識を育てる授業(男女必修で行われている技術家庭科など)をさらに充実する	35.7	学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする	33.3
	40代	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する	47.9	男女平等の意識を育てる授業(男女必修で行われている技術家庭科など)をさらに充実する	33.1	学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする	29.8
	50代	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する	57.2	学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする			38.6
	60歳以上	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する	59.0	学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする	35.8	保護者会などを通じ、男女平等教育への保護者の理解を深める	33.2
男性	20代	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する	33.9	学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする	32.1	男女平等の意識を育てる授業(男女必修で行われている技術家庭科など)をさらに充実する	25.0
	30代	男女平等の意識を育てる授業(男女必修で行われている技術家庭科など)をさらに充実する	44.2	学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする	42.9	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する	36.4
	40代	学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする	43.5	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する	40.2	男女平等の意識を育てる授業(男女必修で行われている技術家庭科など)をさらに充実する	23.9
	50代	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する	44.5	学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする	41.2	男女平等に関する教職員研修を行う	31.9
	60歳以上	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する	56.3	保護者会などを通じ、男女平等教育への保護者の理解を深める	41.9	学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする	41.0

<地域別>

いずれの県民局管内も、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する」が最も多く、次いで「学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする」、「男女平等の意識を育てる授業（男女必修で行なわれている技術家庭科など）をさらに充実する」の順となっている。

【図表17-3 学校教育において男女平等を推進していくために必要なこと(地域別)】

(単位:%)

	備前県民局管内		備中県民局管内		美作県民局管内	
1位	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する	49.6	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する	49.0	生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を活かせるよう配慮する	52.6
2位	学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする	37.4	学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする	36.2	学校生活での児童・生徒の役割分担を男女同じにする	39.5
3位	男女平等の意識を育てる授業(男女必修で行われている技術家庭科など)をさらに充実する	30.8	男女平等の意識を育てる授業(男女必修で行われている技術家庭科など)をさらに充実する	30.7	男女平等の意識を育てる授業(男女必修で行われている技術家庭科など)をさらに充実する	34.2

＜前回調査との比較＞

H16年調査と比較すると、ほとんどの項目でH16年を下回ったが、「保護者会などを通じ、男女平等教育への保護者の理解を深める」は、24.6%から25.8%へと1.2ポイント上昇した。

【図表17-4 学校教育において男女平等を推進していくために必要なこと(前回調査との比較)】

